



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：200千円

## 【官学連携】 障害者文化芸術活動支援ワークショップ（華を結うひとたち展）

**目的・趣旨** 静岡県行政と連携した「官学連携活動」として、障害のある方と本学の学生によるワークショップを企画開催する。地域におけるインクルーシブな文化芸術活動の場と機会を創造し、地域の福祉的課題解決への貢献を目指す。

**日時・場所** 令和5年9月9日～令和5年10月23日  
静岡文化芸術大学 ギャラリー・自由創造工房

**体制** （実施代表者） 文化政策学部 文化政策学科 准教授 小林 淑恵  
文化政策学部 芸術文化学科 講師 南田 明美  
デザイン学部 デザイン学科 准教授 荒川 朋子

**共催・後援等** （共催）静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと  
（協力）浜松市浜松手をつなぐ育成会  
（協力）聖隷クリストファー大学 ボランティアサークル 2ぴいす  
（後援）浜松市

### 内容

令和4年度に続き2回目の開催となった。外部連携先は、静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと、静岡県スポーツ・文化観光部 文化局 文化政策課、浜松手をつなぐ育成会、聖隷クリストファー大学である。活動内容は、  
①ワークショップの開催  
②第25回静岡県障害者芸術祭の展示  
③ギャラリーでの作品展示  
からなり、地域連携演習の受講者3名と小林ゼミの学生が企画・運営を行った。今年度は、静岡県が東アジア文化都市2023に選定されており、このロゴマークに因んだテーマ「華を結う」を設定し、全体の活動のコンセプトとした。



### 結果・成果

○9月9日 ワークショップ開催@静岡文化芸術大学自由創造工房  
学生10名、浜松手をつなぐ育成会を通じて障害を持つ若者10名他、同伴の親・兄弟、教員を含み、35名程度が参加。ワークショップでは、学生らが企画した「手形アート」の活動を参加者で行った。はじめは参加者、学生も双方に緊張していたが、徐々に打ち解け、会場はゆるやかな空気に包まれるようになっていた。

○9月30日～10月5日 第25回静岡県障害者芸術祭（連続企画）@クリエート浜松  
手形アートの大型作品の中で中津川ディレクターの選定した作品「春」が展示され、またワークショップの様子を動画にしたビデオが上映された。多くの静岡県民（西部地区）に来場いただき本活動の様子を見いただくこととなった。

○10月18日～10月23日 共同製作の作品展示@静岡文化芸術大学ギャラリー  
期間中の来場者数は136名で、短期間で多くの方に来場いただいた。また来場者アンケートも100名以上の方に回答頂き、本活動の意義を改めて感じた参加学生は手ごたえを感じていた。  
※本展示については、静岡新聞（10/20朝刊）、中日新聞（10/20朝刊）に掲載された。

